

事務事業 No./名 称	■サービス部門 環境-05 収集運営事業 □支 援 部 門									
主管課	資源循環課				関連課		環境センター			
分野名	生活環境									
目標 (目標値)	廃棄物を適正に処理し、循環型社会の形成を目指す。平成27年度のリサイクル率を60%とする。									
人口等の データ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備 考					
	人 口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世 帯 数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯						
	事業の対象者数									
運営資源 状 況	決算値(千円)	417,527								
	(国・県)	1,862								
	(負担金等)									
	(一般財源)	415,665								
	人員配置数	2.0								
	人件費(千円)	17,293								
	協 働 の パートナー									
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	434,820								
	市民1人当 りの経費(円)	2,454								
	対象者1人 当りの経費(円)									
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名⇒	横浜市	横須賀市	逗子	藤沢市	鎌倉市				
	1人当たりのごみ排出量	937g	992g	990g	882g	1,063g				
	リサイクル率	25.6%	34.7%	25.5%	32.0%	47.7%				
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)			
ごみ焼却量	◎	目標値	40,340t	39,700t	39,745t	38,523t	29,923t			
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	40,173t	40,389t	39,100t	37,891t				

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止
収集運営事業	305,722千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E		
	事業の概要	資源物やごみについて収集運搬業務を民間委託する事務			
収集運営事業(新)	111,805千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E		
	事業の概要	戸別収集の実施に向けたモデル地区における検証事務			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E		
	事業の概要				
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E		
	事業の概要				
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E		
	事業の概要				

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	戸別収集のための基礎データ収集の実施。		
課題解決のための取組	全市戸別収集実施のため、七里ガ浜、鎌倉山、山ノ内地域をモデル地域に指定して戸別収集を実施し、基礎データを収集した。	取組の結果	■解 決 □未解決
未解決の課題			

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切○ 要改善△ (評価の視点を参照) 	①効率性	○	今後の 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続C: 改善・見直しD: 統合縮小 E: 廃止・休止		※□事業完了		
		②妥当性	○			戸別収集・有料化の円滑な実施に向けて、制度・体制の構築を図る。		課長等名	
		③有効性	○					A	担当課長
		④公平性	○						谷川 克也